

丁文杰（男）

2003年9月～2007年7月 北京航空航天大学公共管理学院（管理学学士学位）  
2005年9月～2007年7月 北京航空航天大学法学院（法学学士学位）  
2007年10月～2009年3月 亜細亜友之会日本語学校  
2009年4月から～現在 北海道大学大学院法学研究科

## 着実な態度、自分に適した道を選ぶこと

日本留学と言えば、私は日本の名門校の看板を背負った学生に比べ、輝かしい留学生活とは言えませんが、一歩ずつ着実に語学学校から大学院に進学したことが、私にとって最も自分に適した道歩んでいたと思います。ここに、自分の体験と心得を踏まえ、皆様に述べてみることにしました。

### 1、語学学校—亜細亜友之会日本語学校

2007年中国の大学を卒業後、同年10月に日本へ留学し、亜細亜友之会日本語学校に入学しました。語学学校に着いた翌日、クラス分けテストの結果、大連理工大学日本語学部を卒業した女子学生とともに湖南大学交流留学生クラスに分けられました。湖南大学交流留学生という名称でわかるように交流学生として湖南大学日本語学部から日本へ留学した交流学生です。幸か不幸かわかりませんが、クラスは男女バランスが取れなく、男1：女16（私だけが男子学生）でした。また、私以外の学生のほとんどが日本語学科出身の学生で、はっきり言って私が弱者になる構図でした。日本に来る前、日本語能力一級試験に合格しましたが、毎回教室で発表する時には、私のめちゃくちゃな発音が皆に笑われる対象になってしまい、如何に気まずかったか想像できるかと思います。時には怒りを感じました。しかし、その悔しさをバネにして一生懸命に発音を直しながら「今に見ている」という思いで彼女達と競争することにしました。今になって考えてみれば、実は彼女達のお陰で自分が頑張ったということがわかります。このように彼女達と八ヶ月間、幸運な時を過ごしました。発音において十分な自信を以って彼女達と勝負をかけようとした時分には、既に彼女達は交流留学期間終了がまじかに迫り帰国せざるを得ないことになっていました。空港で別れる時には、別れを惜しむようになりしました。彼女達と一緒に勉強し、富士山・富士遊園地観光、地震体験とNHK見学、四川大地震募金活動などを振り返ってみると、留学生活の中で、一番楽しく、天真爛漫で未練を感じる時でした。

2008年炎暑の中、大学院進学試験準備に着手し始めました。来日前に、大学院に進学するため、先に研究生一年を通して（別科を通さなければならない）と思いましたが、全く別の話になりました。日本の大学院に進学するには、主に二つのルートがあります。一つは、積極的に大学院の教授とコンタクトを取り、教授からの内諾を受け、先に一年間教授の研究生になって正式な大学院試験を受けて大学院生になるものです。日本の教授は一般的に研究生を取る傾向が強いので、これが最も合格しやすく、多くの留學生がまず考えられる方法だと思います。もう一つは、研究生の道を選ばず直接大学院試験を受けることです。大学院入学試験は一般的に筆記試験と面接試験があり、筆記試験には専門内容と外国語（普通は筆記試験合格者だけが面接試験に参加できる）があります。直接試験に臨むということは、日本人学生と同じ専門科目と外国語試験を受けて同じ土俵で競争するとのことですが、この方法には確かに一定の難度があります。しかし、私はこの後者の道を選択し、事前に教授とコンタクトを取らず直接受験することにしました。受験勉強のために、私は思い切ってアルバイト時間を大幅に短縮し、多くの時間を専門科目と外国語勉強に費やしました。また、余暇時間を利用して各大学の情報を収集しました。例えば、例年の試験問題集、テスト種類及び試験時間などを集めました。大学院、専門科目、教授の選択、願書・研究計画書の作成、成績証明書類及び経費保証書などを準備しますが、最初はわけがわからなく、どこから手をつけるか迷った時もありました。この時、語学学校の校長先生と丁先生は積極的に助けてくれたり、志賀先生からは研究計画書の指導を受けたりしました。このように皆様の温かいご支援の中で、安心して勉強し、ついに自分が願った大学院に進学することができました。

### 2、大学院—北海道大学

2009年2月になると、すべての国公立大学の募集時期は終わろうとしていました。実は、少し前に

国士舘大学大学院と青山学院大学大学院（正規院生）の入学通知書が届きましたが、私立大学学費の100万円近い金額を考えると悩みました。本当の私の来日目標は、有名な国立大学大学院への進学で、この気持ちはずっと捨てずにいました。この時、研究したい知的財産権法分野の資料を調べた結果、北海道大学大学院（国立）で有名な知的財産権法を研究しておられる田村善之教授が目にとまりました。田村善之教授は日本文部科学省指定の知的財産権法の重要な研究プロジェクトの責任者であり、日本政府内閣府官房などの政府関係機構及び国内外学術協会の理事または学術に関する職務を兼任している有名かつ名声が高い教授でもあります。私は躊躇せず北海道大学大学院の試験（教授と事前にコンタクトを取らず）に参加しました。結果、筆記試験には合格しましたが、面接試験で不合格になり嬉しさは長続きしませんでした。当時、だいぶ失望しましたが、冷静に考えてみれば結局不合格になった原因は自分の実力が足りないところにあると感じました。語学学校の校長先生と丁先生の励ましのお陰で、勇気を出して北海道大学の田村善之教授に研究生として受け入れて下さるようメールを送りました。メールを送った30分後、教授から早速ご返事をいただき、研究生の内定が決まりました。

2009年4月、飛行機に乗って北海道に行きました。半年間の研究生生活を経て同年10月には順風満帆に北海道大学大学院法学研究科の修士課程に合格しました。語学学校で日本語基礎を固めたお陰で大学院の生活には何ら困難はありません。この一年間の大学院の中で、田村教授の数編の論文を翻訳して中国人民大学の主要な雑誌及び韓国ソウル大学の学術雑誌「LAW & TECHNOLOGY」に発表し、北海道大学雑誌「知的財産法政策学研究」には私個人の論文を発表したりしました。2010年3月に、北海道大学を代表として復旦大学、南京大学、南京師範大学の法学院を訪問し、一週間の大学院生法学シンポジウムにも参加しました。このような一連の成績をおさめた結果、修士一年生として日本文部科学省の数少ない奨学生になりました。

知的財産法研究のある発表会の時、発表終了後ある学生から「中国留学生としてこのような大きな研究会でスラスラと日本語で論文を発表できる秘訣は何か」と質問されたことがあります。当時私は躊躇せず「これは亜細亜友之会日本語学校で一年間語学学校の先生から正確な日本語をしっかりと学んだお陰です」とはっきりと答えました。

来日前、既に管理学学士と法学学士学位を取得し、日本語能力試験一級まで合格したので、普通は来日後直接大学院の研究生に進めると思いがちですが、敢えて私が躊躇せず亜細亜友之会日本語学校を選択した理由は、語学学校でしっかりした日本語を学びたかったからです。今になってみれば、それが正解だったと思います。もし、語学学校でしっかりした日本語を学ばず多くの資料を調べなかったら、今日のような結果にならなかったと考えられます。よって、はっきり言いますと、着実に自分に適した道を選ぶということは、最も現実的で最高の近道だと思うのです。また、不撓不屈の精神と弛まず勉強する意欲があつてこそ、自分の目標が達成され成功につながると思います。